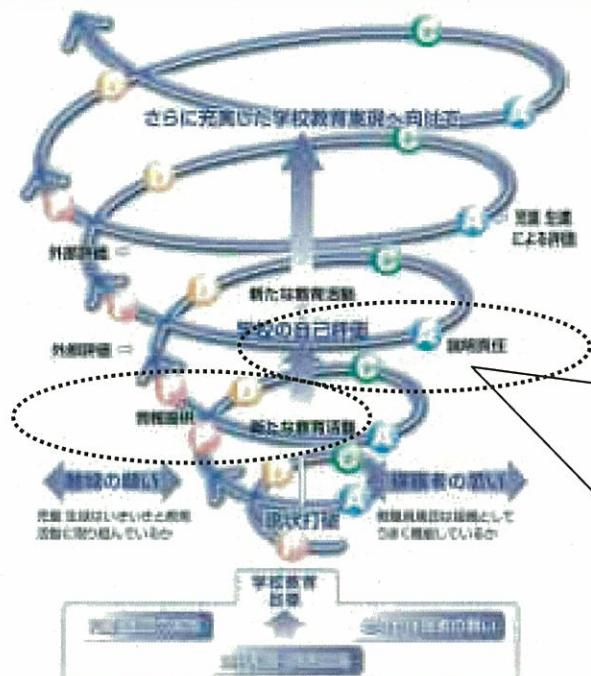


## 5 成果の検証と公表



目標に照らしてその達成状況を見極めたら、結果を公表しつつ、より一層「信頼される学校」「開かれた学校」をめざしていく営みが求められています。

公表の際には、評価に基づく成果や学校のよさ、課題点に対する手立てや見通し等について根拠をもって示すことが大切です。

学校に支援的に関わる人のネットワークを築くためにも、必要な情報をオープンにし、積極的な提供に努めることが望されます。

	学校は わかっている	学校は わかっていない
学校外の人は わかっている	<b>共有されている 内容</b> 次第に拡張	<b>学校が 見えていない内容</b> 外部評価による自覚
学校外の人は わかっていない	<b>非公開の 内容</b> 情報提供の促進 (個人情報等を除く)	<b>未知の 内容</b> 相互理解による縮小

### 実践への視点

- 評価・点検した事柄について、価値付けがなされているか。
- 評価結果をふまえて、今後どうするのかという手立てが示されているか。
- 手立てによって今後どうなっていくのかという見通しが示されているか。
- 公表の目的や対象を意識し、内容や方法等について工夫したか。
- 公表だけでなく、理解や納得を得る双方向のシステムがあるか。

例: 連携・協働につながる公表

【ポイント】  
焦点を絞って裏付けとなる  
データを示し、わかりやすく  
提示！  
評価結果を分析し、明らかに  
なった課題に対する改善・更  
新策を明示！

- P T A 総会や各種懇談会等で直接説明  
○ 学校だより・P T Aだより等の紙面で説明  
○ ホームページ等の電子媒体で説明

【ポイント】学校のよさや重点的な取組を積極的に情報提供!  
自己評価だけでなく、外部評価を取り入れて様々な視点で見る!